

令和5年度 生活介護・施設入所支援 事業結果報告

社会福祉法人 清和会
障がい者支援施設
つくしの里

1. 入所、生活介護の利用状況

(3月末現在)

【施設入所支援】

入所者数

性別	人数
男性	29名
女性	21名
合計	50名

※前年度末から増減なし

重度障害支援加算対象者
31名

※前年度末から増減なし

待機状況

	性別	現 状		性別	現 状
1	男性	他児童施設に入所中	11	男性	他事業所を利用し在宅で生活中
2	男性	他児童施設に入所中	12	男性	当事業所のグループホームを利用し生活中
3	男性	入院中	13	男性	他事業所に入所中
4	男性	他事業所を利用し在宅で生活中	14	男性	他事業所に入所中
5	女性	入院中	15	男性	当事業所の生活介護を利用し在宅で生活中
6	女性	入院中	16	男性	他事業所に入所中
7	男性	入院中	17	男性	他事業所に入所中
8	女性	当事業所の生活介護を利用し在宅で生活中	18	女性	当事業所の生活介護を利用し在宅で生活中
9	男性	当事業所のグループホームを利用し生活中	19	男性	他事業所のグループホームに入所中
10	男性	当事業所の生活介護を利用し在宅で生活中	20	男性	当事業所の生活介護を利用し在宅で生活中

※前年度末からの2名増

施設入所支援利用率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
開所日数(延べ日数)	1,500	1,550	1,470	1,519	1,519	1,470	1,519	1,440	1,519	1,542	1,450	1,550	1,586
外泊日数(延べ日数)	35	58	4	13	59	64	37	5	70	24	19	29	35
利用日数(延べ日数)	1,465	1,492	1,466	1,506	1,460	1,406	1,482	1,435	1,449	1,518	1,431	1,521	1,558
平均利用者数(1日)	48.8	48.1	48.9	48.6	47.1	46.9	49.4	47.8	48.3	50.6	47.7	50.7	48.1
利用率(当月)	97.7%	96.3%	97.7%	97.2%	94.2%	93.7%	95.6%	95.7%	93.5%	97.9%	98.7%	98.1%	96.4%
利用率(3ヶ月平均)	98.2%	97.2%	97.2%	97.1%	96.4%	96.2%	96.2%	95.7%	94.6%	95.7%	96.7%	98.3%	96.6%
令和4年度利用率(当月)	100.3%	102.9%	103.7%	103.7%	103.0%	98.6%	100.2%	100.5%	97.8%	97.2%	99.1%	97.8%	100.4%
令和4年度利用率(3ヶ月平均)	101.1%	101.4%	102.3%	103.4%	103.5%	101.8%	100.6%	99.8%	99.5%	98.5%	98.0%	98.0%	100.7%

【生活介護】

利用契約者数

性別	人数
男性	45名
女性	31名
合計	76名

※前年度末から増減なし

延長支援加算対象者
9名

※前年度末から1名増

日中一時支援契約者数
22名

※前年度末から1名増

生活介護利用率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入所者利用人数（延べ日数）	1,077	1,114	1,077	1,119	1,086	1,034	1,100	1,052	1,079	1,144	1,039	1,125	1,087
在宅者利用人数（延べ日数）	469	445	462	439	449	463	428	447	263	365	425	466	427
合計（延べ日数）	1,546	1,559	1,539	1,558	1,535	1,497	1,528	1,499	1,342	1,509	1,464	1,591	1,514
日中一時への調整日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
開所日数	22	23	22	23	23	22	23	22	23	22	22	22	22
平均利用者数（1日）	70.3	67.8	70.0	67.7	66.7	68.0	66.4	68.1	58.3	68.6	66.5	72.3	68
利用率（当月）	117.1%	113.0%	116.6%	112.9%	111.2%	113.4%	110.7%	113.6%	97.2%	109.3%	116.2%	115.3%	112.2%
利用率（3ヶ月平均）	109.1%	115.6%	115.6%	114.2%	113.6%	112.5%	111.8%	112.6%	107.2%	106.7%	107.6%	113.6%	111.7%
令和4年度利用率（当月）	115.4%	119.3%	122.4%	114.3%	104.6%	95.2%	99.6%	117.2%	116.8%	94.3%	118.3%	116.7%	111.2%
令和4年度利用率（3ヶ月平均）	103.2%	113.0%	119.1%	118.7%	113.8%	104.7%	99.8%	104.0%	111.2%	109.4%	109.8%	109.8%	109.7%

2. 重点課題

	項目	結果報告
サービスの質の向上	利用者満足度調査	10月に満足度調査項目を見直し、11月の面談時を中心に調査を実施。集計結果を2月に職員へ周知し、ご家族へは里だよりで郵送した。また、3月のどぎゃん会で利用者へ、情報交換会でご家族へ報告した。 前年度と比較すると、数値上での大差はないが、ほとんどの項目が良い結果であったと判断できる。中でも呼称、プライバシー、支援計画、掃除関係の項目は大きく改善することが出来た。しかし、少人数であっても、不満として捉えられていることに対しては、更に調査し、改善していかなければならない。理解が難しいという理由もあるかもしれないが、例年、苦情解決制度に関して理解されている方が少ない。改善できるよう再度検討が必要。 前年度と同じ内容で調査したため、当年度に変更せざるを得なかった日課やユニット体制等、調査項目として確認すべき点を含めていなかったことは大きな反省点である。

	項目	結果報告
--	----	------

	アロ	ロケロ
サービスの質の向上	<p>専門性の習得 サービス向上委員会の促進 資格取得の推奨</p>	<p>サービス向上委員会の取り組み状況について、委員会によっては、予定と実施する時期が多少ずれることはあったが、予定に沿って活動できた。詳細は別紙参照。 資格取得の推奨に関しては、人事考課面談において触れてきた。取得を目指し、努力した結果、介護福祉士1名、行動障害に特化した資格1名の計2名が、新たに資格を取得することが出来た。引き続き、支援の質の向上と人材育成を兼ねて、資格取得を推奨する。 又、当年度はオンラインでの職員研修「サボカレ」を導入した。上期は周知不足もあり、受講率が低かったが、下期は、経験年数に応じた視聴すべき動画を明確に周知してきたことで、受講率は9割以上となった。中には設定テーマ以外の研修を受講している職員もおり、時間にとらわれず研修を受けることが出来るようになったことは非常にメリットとして大きい。反面、コロナ禍の影響をそのまま継続しているところもあり、集合体の研修が出来ておらずグループワークでディスカッションすることが欠けている。次年度もサボカレを使用した研修体制は継続しつつ、集合体の研修によるメリットも加えていく。</p>
人権の擁護	<p>意思決定支援の安定 個別支援計画に強み意見 サービス向上員会での意見の聞き取り 苦情相談受付</p> <p>人権やプライバシーが守られた利用者支援の充実 利用者支援の充実 現状の問題点の改善</p>	<p>個別支援計画書を作成する上で、利用者の強みを取り入れることを大きなポイントとし、面談において、利用者と家族へ説明した。 どきやん会を利用し、行事や日常生活に関する事等聴き取りの機会とした。給食会議では食事に関する事等、意見を聴き取り反映させた。 利用者の相談機会を権利擁護委員会担当者が、サービス等利用計画のモニタリング時に合わせて実施した。幅広い利用者の意見を聞き取ることが出来、効果が得られた。</p> <p>毎月のケース会議・調整会議において議題の一つとして確認してきた。当年度中、課題として出てきたトイレ使用中に入口のドアが開いていることや利用者に関する書類整理の不備について、改善されてきたとはいえ、未だ不十分として捉え、ドアが閉まっている事、整理整頓された状態が当たり前となるよう指導する。他にも利用者の更衣が外から見えていた、更衣された衣類が他者の目にふれる、電話で個人情報や安易に伝えない方が良いという意見もあった。その他、男性職員の減少により異性介助が増えつつあるといった意見も上がった。当然、同性介助を基本とし、施設内での常識とならないよう、ひとつひとつ利用者の立場に立った視点で物事を捉え、利用者のプライバシーが守られた、よりよい支援を目指していく。</p>
	<p>研修体制の安定 オンライン研修の導入と階層に合わせた研修の促進</p>	<p>職員数の不足により、集合体の研修が困難なため、オンラインでの職員研修「サボカレ」を導入した。5月から開始し、経験年数に合わせて研修内容を設定し、ひと月の中で個人の都合に合わせて受講できるようにした。受講後にレポートをあげるようにした。設定されたテーマに対し、研修動画が複数のケースもあるため、どの研修動画を視聴してよいのか、わからないといった意見やレポートをあげる手順が上手くいっていなかった状況もあった。又、上期は受講状況の把握ができていなかったため未受講者へのアプローチができず受講率が低かった。下期は、どの動画を視聴するか明確にしたうえで、月々受講を呼びかけてきた。結果、9割以上の受講率となった。設定された研修以外にも、知識として身につけたい内容を受講する職員も増えており、導入したメリットは大きい。次年度もオンラインの研修を継続し、利用者支援の質を高めていく。</p>
	アロ	結里報告

	アセスメント	報告事項
人材育成	人材育成 育成システムの見直し 人事考課の効果的な運用	前年度見直した考課基準を当年度より採用した。実態に即した考課とするうえで、目標基準の設定や観察シートも重要となってくる。日頃から部下の育成に取り組むことは重要な業務であり、大きな課題としても取り組んでいるが、評価する側の捉え方の違いにより依然、差を感じる。考課者が考課基準の共通認識をより深め、考課者による差が生まれないよう対応する。 新職員の育成に関しては、習熟度にあわせ段階的に業務の習得を進めてきた。6年度の新職員への育成システムも見直し、確実にスキルを習得していけるような育成基盤を整えていく。
	人材定着 業務の簡素化 担当業務のウエイト調整 腰痛予防、健康管理への取り組み ポジティブな雰囲気づくり	衛生管理委員会において、業務の簡素化を目的として6月に職員アンケートを実施。9月までにアンケートを集計し、意見に対して回答した。環境整備として昨年度からあがっていたロッカー室へのエアコン設置、勤務に関しては、年末年始の当直・夜勤者以外の勤務者にも年末年始手当支給の要望などがあり、検討のうえ対応する。 健康診断や夜勤者検診、腰痛検診、メンタルヘルスに関しても予定通り実施できたため、結果から見える課題については、衛生管理委員会を中心に対応した。ポジティブな雰囲気を作ろうとしてきたが、コミュニケーション不足によるチームワークの欠如があった。組織としての機能とチーム形成が重要であり、そのためにはコミュニケーション（報告・連絡・相談）が当たり前にとれる体制とする。
	人材確保 人材委員の活動継続と充実 インターンシップの実施 中途採用	職員の採用状況として、7月24日より1名を採用し、12月末に1名が退職した。2024年の内定者は、3月末時点で新卒4名、転職者3名の7名を確保した。 マイナビの新卒、転職フェアにも積極的に参加した。フェアから施設見学までつながった方もいたが、採用までには至らなかった。マイナビのサイトより当事業所に興味を持ち、インスタグラムで事業所の概要を見て、採用試験まで繋がったことは効果があったと言える。又、当年度は高校から大学まで学校訪問も実施した。人材を確保すべく、高卒求人まで含めて取り組んできたが、活動の時期が遅かったようで、採用までには至らなかった。しかし、当年度の動きが先方へのPRにもなり、年間のスケジュール等見えた事もプラスとなった。
事故・感染症予防	事故防止 自己分析と防止策の共有と実施 リスクマネジメント委員会での検討 各班特有の事故の減少	当年度は「同一事故の減少」を目標に設定し、毎月の事故状況をリスクマネジメント委員会で検証・協議、対応してきた。同一事故件数は52件であり、前年度と比較し若干の数は減少しているがほぼ同等と考える(昨年度56件)。事故の内訳は、他傷の割合が約半数を占め、前年度とほぼ変わらない割合であった。他、転倒、器物破損の割合が増加し、受傷の割合が減少した。 当年度はユニット体制となり、日課等含め体制が変わったことも環境面に影響したのか、同一利用者の暴力、器物破損や介護事故が上期に多かった。下期では、主治医との相談及び状態確認のもと服薬調整を行い、あわせて、居室内で過ごすことが出来るよう室内環境を整えたことで他傷と器物破損は減少した。介護事故に関しては、介助方法などを周知したことで減少した。下期は、居室内での転倒、職員がいない場面での転倒が多く、本人に起因する事故が多かった。職員が手薄となるユニット体制での事故を減らすため、事故発生状況を分析し、更なる環境整備により対応した。 年間を通し、ユニット体制で起こりやすい事故やユニット体制であるがゆえに防ぐことが難しい事故等、事故防止課題も明確になった。利用者への余暇時間に対する支援の必要性は大きく、余暇時間への支援の在り方については今後も検討していく必要がある。又、転倒事故等、環境面を整えることで対応できる部分について迅速に対応し、共通理解のとれた支援方法を周知しながら事故の減少に努める。

	「スト」	「中」
事故・感染症予防	<p>感染予防 新型コロナウイルス感染予防対策の実施 BCPの見直しと備蓄品の確保</p>	<p>上期は新型コロナウイルスやインフルエンザの感染拡大はなかったが、下期に新棟を中心とした新型コロナウイルスによるクラスターが発生した。12月5日に新型コロナウイルス感染者を確認。12月14日まで各棟分離の対応を取り、在宅者の受け入れを停止した。罹患者数は、利用者14名、職員4名であった。感染が発生した当日に感染拡大防止を図ったため、5日以降は利用者の新規の感染者は出なかった。又、1月にも2名の利用者が新型コロナウイルスに感染したが、感染が発覚した当日に感染拡大防止対策をとったため新規の感染者はなく、クラスターの発生を防ぐことが出来た。今までのBCP対応やクラスターの経験が実践にも活かされた。 新型コロナウイルスが5類の扱いとなったが、今後も流行期間中や年間を通しての感染予防を徹底する。当年度の経験を踏まえ、次年度においてもBCPを見直し、迅速な対応がとれるようにする。</p>
地域	<p>行事の継続 大津北小学校卒業プレゼント 地区行事参加(区役)</p>	<p>サービス向上委員会の地域交流委員会で小学校の下校見守り活動を継続した。実施回数は月に2回ほどで回数は少ないものの、小学生・先生と声を交わしたり交流することができた。移動販売車からの荷物持ちの手伝いは、上期に1度だけ実施し、下期は需要が少ないため見送った。 北小児童との交流としては、10月の秋の里まつり、12月のもちつき大会、3月には卒業生へのプレゼント渡し等、いくつかの交流を持つことが出来た。学校からもこのような交流が持てる場を増やしていきたいという意見もいただき、次年度はより有意義な交流が持てるよう調整を進める。コロナ禍において、交流の機会が持てない期間が長く続いたが、利用者、児童ともに何ら抵抗なく交流を持つ状況を目にすることができ、地域とのつながり、交流をもつことの意義を改めて感じる事ができた。</p>
情報	<p>SNSの活用 SNS運用方法の検討</p>	<p>つくしの里のインスタグラムは継続。施設の日常が伝わるよう、班活動や班行事などを投稿した。フォロワー数は3月時点で93名。フォロワーからのコメントもあり、今後につながるように対応した。又、インスタグラムの投稿を見て採用試験に繋がったこともあるため、インスタグラムを通したPR活動は今後も継続する。</p>

3. 大規模修繕工事並びに施設整備及び設備整備

単位：千円

項	設備事業名	予算額	支出額	差額	実施状況	備考
1	屋根改修工事	9,020	9,020	0	12月完了	
2	大型布団乾燥機	2,059	2,057	2	5月完了	
3	食器洗浄機 ガステーブル フライヤー	1,210	736	143	7月完了	ガス点検の結果、異常が見られたため買い替え。 食器洗浄機の予算で対応。
			175			
			156			
4	活動場所パーティション	130	157	-27	5月完了	
5	ふれあいルーム壁掛けテレビ	115	101	14	5月完了	
6	福祉の森サーバー	96	96	0	5月完了	リース総額（5年契約）3,190,000円の年間リース料 月額55,800円 【内訳】サーバーリース料8,030円/月・ソフトウェアリース料47,850円/月 2件のリース契約となりリース資産の要件を満たさないため第1次補正予算 で科目を修正
	福祉の森ソフトウェア	574	574	0		
7	福祉の森サーバー（保守）	476	476	0	5月完了	総額2,376千円の年間保守料（月額39,600円）5年契約
8	グループウェアサーバー	439	439	0	5月完了	総額2,199千円の年間リース料（月額リース料38,720円）5年契約
9	高圧器中開閉器	754	754	0	9月完了	電気点検の結果、異常が見られたため受電設備を取り替え。 理事長専決事項として予備費流用。第1次補正予算に計上。
10	支援局防犯カメラモニター故障交換	106	106	0	6月完了	リース物品から削除し（固）器具及び備品予算で買い替え：1次補正
11	療育室エアコン故障交換	587	587	0	2月完了	予定外の故障により（固）器具及び備品の予算で購入：2次補正
合 計		15,566	15,434	132		

4. 支援部門